

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2794600045		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム太寿		
所在地	大阪府柏原市太平寺1-4-30		
自己評価作成日	平成 25年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成 25年 8月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2794600045-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 25年 6月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい、それまで営んできた在宅生活を出るだけそのまま送っていただけるように、過不足のないケアの提供をします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人創設後35年が経過し、柏原市内では32年間地域に貢献してきた社会福祉法人が、2年前に地域密着型高齢者施設の一つとして開設した1ユニットのグループホームです。3階建て1階部分に位置し特養とショートステイが併設されています。独自の玄関を持ち、最新の設備を導入し、和風で落ち着いた生活環境を整えています。「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せがある」を理念として掲げ、「住みなれた思い出のある地域で、その人らしく心豊かな生活が営めるように、馴染みの職員が笑顔でサポートいたします」と表明しています。地域とのつながりを基本とした運営を進め、和太鼓、大正琴、三味線、ハーモニカ、カラオケ、張り絵、ちぎり絵、ドッグセラピー等、地域ボランティアの協力を得た利用者支援をしています。利用者は幼稚園に招かれて園児との交流を楽しんだり、地域の方を訪問して馴染みの関係を楽しんだりしています。食事は利用者と相談しながら毎食一緒に作り、食材は新鮮な野菜を豊富に使って健康にも留意しています。地域や行政との連携が良く、法人のバックアップもあり、今後さらにサービス向上が期待できる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念である『周囲(まわり)の人の幸せを願うところに自らの幸せがある』を入職時および事業所内に掲示することで、周知の徹底を行い管理者、職員が理解把握した上で入居者へのケアの実践に活かしている。	「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せがある」を理念として掲げ、「～住みなれた思い出のある地域で、その人らしく心豊かな生活が営めるように、馴染みの職員が笑顔でサポートいたします」と理念を具体化して、地域密着型サービスの意義をふまえた支援に取り組んでいます。理念はホーム内に掲示し、職員間で共有しながら実践に活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期開催(奇数月)に運営推進会議を開催(義務)し地域代表(地区福祉委員)の皆様方からご意見を頂戴し、また事業所での事柄等を報告している。また、地域のボランティア団体様を多く受け入れ、入居者の皆様と交流し、地域に根ざす事業所作りを目指している。	2年前に地域密着型高齢者施設の一つとして開設されたこともあり、当初から地域とのつながりを基本とした運営を進めています。和太鼓、大正琴、三味線、ハーモニカ、カラオケ、貼り絵、ちぎり絵、ドッグセラピー等、地域ボランティアの協力を得た利用者支援を進めています。近くの幼稚園に招かれて園児との交流を楽しんだり、特養やショートステイを利用されている地域の方を訪問し、馴染みの関係を楽しんだりしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	柏原市高齢介護課集会より「転ばぬ先の元気教室」柏原市社会福祉協議会主催の会場に出向き『認知症について』各地域密着のチームに分かれ講座及び認知症サポーターの説明とオレンジリングの配布を行ったりして、地域の人々に向けて発信をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催(奇数月)に運営推進会議を開催(義務)し地域代表(地区福祉委員)の皆様方からご意見を頂戴し、また事業所での事柄等を報告している。ご家族からもご家族様の目線による貴重なご意見を毎回頂戴し、事業所運営に役立たせていただいている。	運営推進会議は規程を定め、2ヵ月に1回、年6回の定期開催をしています。会議メンバーには、利用者・家族、地域住民代表、地域包括支援センター職員、市職員、市社協地区担当職員等が参加しています。最近の会議では、ホームから「利用者の生活状況」や「ひやりはっと」等の報告を行っています。委員からは、「災害対策についての質問」「地域ボランティアの協力が得られていて利用者が楽しまっている」「食事を試食したが美味しい」「ホームページ掲載内容が分かりやすい」「事故対応や感染症対策がしっかりしている」等の意見が出されています。会議で出された意見や助言については、速やかにホーム運営に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所部会(地域密着型)を2ヶ月に1回柏原市高齢介護課・福祉指導監査課・9事業所による情報交換を行っている。	地域密着型高齢者施設の一つとして開設されたこともあり、当初から市の担当課と情報交換を行い、相談しながら運営を進めています。管理者は市の担当課に出向き、事故報告書の提出を速やかに行い、利用者状況等を細やかに報告するなど、模範的な対応をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人間らしさ(人間としての尊厳と誇り)を失われないよう、居室入口は施錠せず 自由な暮らしが出来るよう、身体拘束ゼロの手引き(厚生労働省)を元に取り組んでいる。	運営規程に身体拘束等の原則禁止を明記しています。職員は、身体拘束ゼロの手引を学習し、身体拘束を行わない支援を進めています。日中は玄関を施錠せず、利用者が自由に行き来できるようにしています。利用者が外出される場合は、職員が付き添い、サポートしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人より、高齢者虐待予防に関する通達文があり、職員全員が目を通し理解を深めている。またパワーポイントを使用した高齢者虐待防止研修を実施し、法令や事例を元に理解把握に努める。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者様で成年後見制度を利用されておられる方がおられますが、成年後見制度については、これから話し合いをして理解を深めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び締結に関しては、複数の職員にて行い、まず重要事項説明書を用いて、契約内容を説明し、家族様への質問・疑問などを聞き、ご理解いただける説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時、直接家族様より要望や意見など話を聞かせていただいています。又、苦情箱を玄関に設け、できるだけ、早く回答ができるよう職員での話し合いをおこなっています。	家族が来られたら、職員から挨拶をして意見や要望を聞くようにしています。また、電話での連絡時にも用件だけでなく、意見や要望について確認しています。玄関に備えつけた大きなポスト型の意見箱は毎日確認をして、意見等の投書があればホーム運営に活かしています。家族から『職員の名前と顔が分かるようにして欲しい』との要望があり、現在ホーム内に名前のついた写真を掲示する試みをしています。運営推進会議には家族代表2名に参加してもらい、発言の機会を設けています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月/1回（フロアーミーティング） 週/1回（ミニミーティング） 毎日の申し送り時、話を引き出すようにしています。	管理者は日常的に職員の意見を聞き、ホーム運営に活かしています。さらに、月1回の職員会議や週1回のミーティングで出された意見や提案については、上層部とも相談して運営に活かしています。職員の定着率が高いことから、職員の意見が反映され、働きやすい環境づくりが進められていることが分かります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に関しては、1 ヶ月単位の勤務シフトにて管理 職員全員 毎月2回、公休の希望を申し出る事ができ、シフトに反映している。 やりがいについては、職員全員が何かの係りにつき、責任のある役割についている。 向上心については、これからミーティングなどの時間にて介護技術・の勉強会をもうけていこうと進めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を順次行っています。 職員のケアの力量の低い人に対しては、個別に指導を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2 ヶ月に 1 回開催される、柏原市に所在する地域密着型事業所が集まり、事業所連絡会が催され、当事業所も参加し交流を行っています。その際、各事業所が抱える問題や課題を共有し、問題解決を図り、事業所間の交流、資質向上につなげています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居までに、管理者とケアマネが、面接に行き、『知り合い』といった関係性を築き、顔つなぎを行う。入居当日には『知り合い』がお出迎えし、コミュニケーションを図って本人に不安を与えない様に行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に、利用者様・家族様一緒に話し合い、入居後、別々にご家族様のみと面談する機会を設け、どんな些細なことでもその場で現していただくようお願いをさせていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様の両方の意見を聞きながら、本人の身体状況を見極めながらサービスの導入時期を見極め、サービスを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方それぞれのご意向に従いながら、一緒にスーパーへ食材の買い物に出かけたり、キッチンで一緒に調理をしたり、場合によっては味付け自体をお願いするなど、共同で日常生活を送る形を進めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の抱える課題・ニーズをスタッフ・ご家族の共通認識とし、『大切な家族を預けている』といったご家族の思いを最大限尊重し、無理の無い範囲でご家族様にも関わりを持っていただく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方各々のこれまでの生活環境の把握に努め、近隣の知人のご面会の場設定、自宅に帰り投票し、知人と遊ぶ、知人宅へ散歩がてらお邪魔するなど、可能な限りの支援を実施。	知人や友人が来られた場合には、職員は利用者がゆっくり落ちついて歓談できるように配慮しています。また自宅の隣人や、ホームの近隣に住んでいる方、同法人特養やショートステイを利用されている地域の方等を訪問し、馴染みの関係を楽しんだりする支援もしています。家族にも協力を依頼し、自宅に帰って選挙投票へ出かけたり、墓参りができるよう調整したりするなどの支援もしています。利用者が希望する場合には、電話をかける際の支援をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の能力に合わせ、またニーズを把握した上で、消極的な方にも押し付けではなく気軽に他の皆様の輪にスムーズに入っていけるよう、スタッフが心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	疾病により入院治療を余儀なくされ、退居された方およびそのご家族に対して、その後経過把握のためにお電話などをし、その際退院後の帰来先等の不安など様々な事柄に対しいつでも相談を受ける事ができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者一人一人の暮らしにあわせご本人と話をさせてもらい、想い・希望・満足度を確認し、ケアプランに反映し、その都度検討・ミーティングなどをおこなっている。	利用者一人ひとりに担当を決め、担当者が利用者の思いや意向を確認し、24時間シートを作成するなど、細やかに取り組んでいます。利用者が言葉で表現しにくい場合には、好みのものを選んでもらったり、しぐさやそぶりで確認したりしています。近くのコンビニに依頼して、菓子等を出張販売してもらい、利用者が好みのものを選んでお金を支払う楽しみを持てるように取り組んでいます。	ホームでは今後も利用者の買物支援に取り組み、自分で好きなものを選んでお金を支払うことができるような支援を続ける予定にしています。今後の取り組みが期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規のご入居者の方に対しては、面接時に、ご本人・ご家族より馴染みの暮らし方を聞き、それに沿ったサービスの利用に努めている。 すでに、ご入居の方については、ご家族の面会時に聞き取り把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居一人ひとりの、一日の暮らしの流れを、24時間シートにて作成。 スタッフ全員が目を通し、一人一人の過ごし方を把握してもらえるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画時、ご本人の意思にて作成。作成したケアプランもその都度本人様に確認をしてもらっている。又スタッフにも理解をしてもらっている。その都度計画やモニタリングをしている。	利用者・家族の意向を確認して介護計画書を作成しています。利用者一人ひとりの担当者を決め、担当者が利用者の思いや意向を確認し、24時間シートを作成し、支援に活かしています。介護計画書は支援内容を見やすい大きさに拡大し、職員が取り組みやすいようにしています。毎月モニタリングを行い、6カ月を目途に見直しをしています。介護計画書は利用者・家族に説明をして了解サインをもらっていますが、一部家族と面談ができないことが重なり、家族への説明が十分に行えていない場合があります。	ホームでは今後、家族と面談ができない場合にも、電話や郵便等を活用して介護計画書の説明等を行い、さらに家族の協力が得られるように取り組む予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者の担当スタッフが責任を持ち記録している。が、スタッフ全員の眼から見てもらい、モニタリング時も一言記入しケアマネージャーがまとめている。ケアプランに沿わないところについては、スタッフ自身連携し努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家での生活スタイルをそのまま守れる様にお寺参り・買い物・自宅への帰宅などご入居者が、希望される事を叶えられるように協力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー・郵便局・花屋・警察・市役所など、ご本人の希望でスタッフ同行し手続き・買い物に出かけたり又地域の幼稚園に招かれお花見や行事に訪問し交流をしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常の診察は、協力医療機関とかかりつけ医にて医療を受けていますが、専門医については在宅時からの医療の継続をされています。受診については、基本家族様同行となっておりますが、都合がつかない場合については、こちら側の対応をしています。	利用者・家族の希望に添った医療機関で受診ができるように支援しています。受診については、家族の同行が原則ですが、家族の都合がつかない場合には、ホーム職員が付き添い支援をしています。専門医の受診支援や緊急時の対応等についても、利用者や家族の意向を尊重し、適切な医療が受けられるように支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師については、週に2～3日・午前9時～午後2時まで現場勤務にて入居者様の適切なアドバイスも受け、つねに介護側と看護側との情報交換も行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は情報として病院のSWCさんと飲まれている薬、既往歴など入院したいきさつなど用紙や口答でも連携します。退院時には病院関係者や家族とも連携して本人さんに一番生活しやすい居場所のを考えたり相談しています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所段階で、終末の意志の確認をしています。年々ご本人の状態の変化があれば、その都度家族様に伝え情報を共有しています。取り組みの事例がないため、今後、ご入居者・家族様と話し合いをしていかなければいけない課題です。	ホームでは終末期支援を行う方針を前提にして、入居時に利用者・家族に説明を行い、意思確認をしています。現在までに終末期支援に取り組んだ経験が無く、支援対象者も無いため、これからの課題となっています。ホームに配属する看護師や、関連医療機関と相談しながら支援についての準備を進めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが緊急対応マニュアルを元に介護事故や急変に対応するための研修をユニットミーティングなどに実施し周知を図っている。 一方でオンコール体制を敷き、医療スタッフと24時間体制で迅速に連携を図れるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	館内に非難経路を明示し常に災害への対応が出来るよう努める。 また災害マニュアルの内容を全スタッフに周知させ、年に2回実施する避難訓練を管轄の消防組合の助言・指導の下実施している。	運営規程に非常災害対策の項を設け、「年に2回以上定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行うものとする」と明記しています。昨年の10月には消防署指導のもとに、消火、通報、避難訓練等の実践をしています。備蓄については車で数分の近距離にある同法人特養に保管していますが、ホーム内には保管していない状況です。	本年度は、ホーム独自の避難訓練を利用者全員参加で行う予定にしています。備蓄についても、ホーム内に確保するよう準備を進める予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大変難しい課題です。毎朝の申し送り時やミーティングで話合ったり、問題あればその都度注意し合い又、スタッフには自分自身を振り返る機会を持ってもらう様に指導しています	利用者一人ひとりを大切にした支援を心がけています。言葉使いや接し方については丁寧に対応し、笑顔で接するようにしています。万が一、不適切な対応があれば職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいます。個人記録等については、鍵のかかる場所に保管しています。個人情報についての取り扱いは、職員雇用時に秘密保持を義務付け、雇用契約事項としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	日々の関係の中で常日ごろから入所者さんとコミュニケーションを持ち希望を聞いていたり遠慮のない関係を築き上げています。決定する時にはスタッフが入所さんと目線を合わせ表情や反応を確認して対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	若い時から朝は苦手ゆっくり起きた人、テレビを観るのが大好きな方には一番テレビの観える席に座って頂く、お風呂が大好きな方にはなるべく希望されるように入って頂くように務め入所者のペースを大事にして無理じいはいないようにしています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服やズボンなど買いに行きたい人は同行して買い物に行って頂いたり、チグハグな服装にならないように声掛けや無理のない気配りをしています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りや片付けは入所者さんと一緒にしています。細かい作業の得意な方、盛り付けが得意な方、テーブルを拭いたり皆さん少しづつ関わって頂き食事の用意に協力して頂いています。	食事は毎食ホームで利用者と共に作っています。利用者と相談しながら献立を1週間ごとに作成し、食材の買物には利用者と共に出かけて、新鮮な野菜や魚介類を多く使うよう心がけています。利用者と職員が共に作って味わう食事は好評で、運営推進会議メンバーにも試食をしてもらい、好評を得ています。また、外食に出かけて楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜中心にお年寄りが好まれる食事、便通にも良い食事メニューにしています。少食の方には負担にならないように盛り付け、男の方には少し大目に盛り付けたりしています。食事時の水分の量も表に記入してスタッフで確認してお茶はなかなか飲まない人にはポカリスエットや味をかえて飲んでもらっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力にて口腔ケアを行われるご入居者の人は、居室に戻り自ら行われています。声掛けが必要で自力の方・声掛けと口腔ケアの介助が必要な方とご本人の応じた対応を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどのご入居者は、自力にてトイレに自ら行かれ時間・排尿・排便を記入して確認をしています。 介助の必要なご入居者については、チェック表を確認し声掛けを行っています。	自室にトイレが設置されていることもあり、ほとんどの利用者が介助なしで排泄をしています。職員は利用者の排泄状況を記録に残し、介助が必要な場合には排泄時間を見て声かけをしたり、トイレに誘導したりしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所者さんには運動で身体を動かす機会や外出の機会を作り水分をしっかり摂るように心がけています。毎日の食事のメニューにも野菜など繊維をたくさん摂れるように考えています。排便表もスタッフで確認連携して情報を共有しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の好きな方は毎日でも入浴したいと言われます。体調を考慮してお好きな日時間に入浴して頂くように調節します。また入浴拒否される方も声掛けの方法、タイミングなどを考えてお勧めします。	入浴は利用者の希望に添って支援をしています。希望が無い場合や入浴を好まれない場合でも、タイミングを見て入浴を勧め、週3回程度は入浴されるように支援しています。季節にはゆず湯や菖蒲湯を楽しんでもらうこともあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	夜間に睡眠が浅い方は日中なる べく起きて頂き、体調を考慮して 昼寝程度の休息を摂れて自然な リズムになるように援助してい ます。また朝がどうしても起き れない方には満足されるまで寝 て自然に目覚めるまで見守りし て生活をして頂いてます。その 人睡眠のリズムや習慣を大事に しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	施設内に併設されている医務室 の医師や事業所内の看護師を中 心に服薬内容や方法、薬の用法 ・用量などについての管理を行 い、介護スタッフもそれについて の理解と薬効や症状の変化を逐 次確認し、速やかに医師や看護 師に連携を図るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	買い物に行きたい方には支援し ています。1日1回は外の空気を 吸って頂くように屋上に誘い散 歩してもらってます。入所者さ んとの会話を大事にして楽し かった時のこと大好きな食べ物 行きたいところなど聞き楽しい GH生活を考えしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事委員会によるスケジュールの外 出以外にも、その日当日に外出のご希望があれば、都度体応している。例えば近隣であれば歩いて一緒にお買い物、自動車に乗ってドライブ、お買い物にお連れしている。 また、例えば親しいご家族に同行頂き、遠方へタクシーでお墓参りに行くなど、できる限りスタッフ、ご家族などで情報を共有しながら希望に叶うよう支援を行っている。	買物や散歩、ドライブなど、利用者の希望に添って外出支援をしています。活発な利用者は、職員が所用で同法人特養に出かける際、車で同行して特養入居者の友人を訪問するなど楽しんでいます。しかし、外出の希望が無い場合には、外へ出る機会が少ない状況です。年間行事として花見や遠足等、月1回程度はみんなで外出を楽しんでいます。家族の協力も得て、日頃は行けない墓参りにも行けるように職員が調整し、実現しています。	ホームでは今後、外出の機会が少ない利用者にも週1回程度は外に出てホーム以外の人々と触れ合う機会を作るよう取り組む予定です。今後の取り組みの成果が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理が出来る人は家族さん、本人さんと話し合い管理してされています。そのお金を持ち買い物に行かれる方こちらで預かっているお金で買い物に行く方外食に行く方色々な形で支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自宅に電話を掛けたい方はその都度掛けて納得のいくまで家族と話して頂いています。郵便物の希望もあればこれから支援するようにします		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は基本的に床、ドアその他を木目調にあしらい、壁クロスも白を基調にさり気なく桜模様を配し、落ち着きと温かい雰囲気の空間となっています。照明器具は眩しさを抑えた暖色系のものを使い『柔らかい明かり』になっています。	ホームは3階建ての1階に位置し、独自の玄関を設置しています。居間や食堂は和風のイメージで整えられ、静かで落ち着いた共有空間になっています。浴室は、家庭的で浴層に出入りしやすいよう、介助イスも準備しています。また特殊浴層もあり、身体機能に合わせた入浴支援を受けることができます。共有トイレは広く、車イス対応になっており、立ち上がりを支援する折り畳み式の補助機を設置しています。廊下には、全面に手すりを付けて利用者が安定して歩行できるようにしています。眺めの良い屋上には、利用者の気分転換や憩いの場として、花壇や菜園を整備しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではご入居の皆様はもちろん、ご家族、地域の方々、ご近所さん（同一棟にある、特養ホームご入居者やショートステイご利用者）が集い、談笑されたり、カラオケに勤しんだりするスペースと、独りでソファに掛けて物思いにふけることが出来るエリアがあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居前のご自宅などから、なじみの調度品や備品を持ち込むことが出来、皆様思い思いの品々を居室に置いて、ホッと落ち着く環境づくりをされています。	利用者は、使い慣れた家具や調度品、テレビ、冷蔵庫、写真や絵、お茶道具等を置いて、自分に合った部屋づくりをしています。室内にはトイレや広くて使いやすい洗面台が設置されており、自室で何でも自由にできる便利さがあります。室内は和風で障子を取り付けられ、明るく清潔感があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	筋力の低下した方にはスタッフが24時間見守り付き添い支援しています。必ず入所者さんが『今何処で何をされているか』と存在を意識しながら生活のお手伝いをしています『ここにいたら安心して生活できる』と言って頂けるように頑張ります		